

人権コラム 心、豊かに

◆ 伝統行事の「心」を継承

<歳神様>

一年の初めに天界から舞い降り、その年の五穀豊穡と家内安全を約束してくれる神様。

「正月」はその歳神様をお迎えし祝う行事で、新年を迎えたときの「あけましておめでとうございます」は、歳神様を迎える祝福と感謝の意を表す言葉です。

正月を迎える喜びは今も昔も変わらず、また正月には様々な伝統や文化、慣習が根付いています。インターネットで正月のイラストを検索してみると、『初日の出、富士山、獅子舞、凧…』など、にぎやかな絵が勢揃い。正月は「めでたい」行事の代表格といえます。

正月のめでたさを彩るひとつに「門松」があります。門松の由来は、歳神様の安息所であり、また下界に降りてくるときの目印とされてきました。そして、その門松に使われる「松」「竹」「梅」（いわゆる「松竹梅」）も、めでたさの象徴として日本人に愛され続けていますが、この「松竹梅」は中国の「歳寒三友」が日本に伝わったものです。

<松と竹は寒中にも色あせず、また梅は寒中に花開く>

中国の松竹梅に対する認識は「清廉潔白・節操」という文人の理想を表現したものであり、「めでたい」感覚は持ち合わせていません。また、日本では松竹梅を等級に用いることがありますが、もともと優劣があるわけではありません。松が最上級で、次いで竹、梅とすることが多く見受けられますが、「三友」と示されているように、松竹梅は「3種の友人」という意味合いが強く感じられます。

正月は、日本最古の行事といわれています。この伝統行事を後世につなげていくとき、「新たな年を迎えられる喜びや感謝の心」を同時に引き継いでいくことが望まれます。そして、その継承は、自然や他人を敬う心のかん養をもたらすはずです。